

三田市子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査等の結果（概要）

1 調査目的

三田市こども計画（第3期子ども・子育て支援事業計画）の策定にあたり、基礎資料とすることを目的に市民アンケート調査を実施しましたので、概要を報告いたします。

2 調査期間 令和6年1月29日～令和6年2月14日

3 調査方法 WEB回答及びアンケート用紙による郵送回答（中高生は学校配布・回収）

4 調査結果

（ ）はWEB回答の数値

	調査対象者	配布数	有効回収数	有効回収率		
				今回 (R5)	前回 (H30)	対前回比
子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査	就学前児童保護者	1,500件	895件 (435件)	59.7% (29.0%)	49.9%	+9.8%
	小学生保護者	1,000件	564件 (300件)	56.4% (30.0%)	51.6%	+4.8%
子ども・若者の意識に関する調査	若者（18歳～39歳）	1,000件	295件 (160件)	29.5% (16.0%)	未実施	
	中学生（中2） 高校生（高2）	1,067件	1,041件	97.6%	96.8%	+0.8%

（注釈）

就：就学前児童の保護者 小：小学生の保護者

中：中学生（2年）・高校生（2年） 若：若者18歳～39歳

（1）就学前児童・小学生の保護者

【子育ての負担感について】

就学前児童保護者（以下、「就学前」）・小学生保護者（以下、「小学生」）のいずれも、近所との付き合いが希薄な人ほど、子育てに負担を感じている割合が高くなる傾向があります。また、はじめての子どもが生まれる前に、赤ちゃんのお世話経験がなかったり、身近に子育てをしている親族や友人がいなかった人の方が、子育てに負担を感じている割合が高くなる傾向があります。共働きが進む一方、人間関係や地域とのつながりが希薄化している傾向があり、子育て家庭の孤立が懸念されます。（資料2-2 P7～8）

●近所の人との付き合いの程度×「子育ての負担を感じるがよくある」

就：気軽に相談できる人がいる ⇒10.2%

ほとんど付き合いがない ⇒29.8%

小：気軽に相談できる人がいる ⇒6.6%

ほとんど付き合いがない ⇒24.2%

●赤ちゃんの世話経験、子育てしている親族や友人の有無×「子育ての負担を感じるがよくある」

就：世話経験、子育てしている親族や友人

・あり ⇒17.0%

・なし ⇒25.2%

【希望する相談先と相談方法】

前回調査と比べ、チャッピーサポートセンターの認知度は就学前・小学生のいずれも増加、家庭児童相談室の認知度は、就学前は増加、小学生は減少しています。(資料 2-2 P19)

「どのような相談先があれば相談しやすいか」は、**就学前**では「認定こども園や保育園・幼稚園など、身近な場所や現在利用している施設での相談」、**小学生**では「インターネットやSNS、メールでの相談」が最も多くなっています。(資料 2-2 P18)

● どのような相談先があれば相談しやすいか

	第1位	第2位	第3位
就学前	認定こども園や保育園・幼稚園など、身近な場所や現在利用している施設での相談 48.0	インターネットやSNS、メールでの相談 31.2	地域子育て支援拠点(子育て交流ひろば)など身近な場所での気軽な相談 26.0
小学生	インターネットやSNS、メールでの相談 36.3	子育てに関する情報の取得や相談ができるスマートフォンのアプリ 32.4	市役所等において、子育ての専門職があらゆる困りごとに応じ、相談から支援までを一体的に行う窓口 29.8

「今後、子育て情報を得るために利用したい方法」は、就学前・小学生のいずれも「三田市の広報誌」が最も多く(就43.9%、小49.3%)、次いで「SNS」(就38.5%、小30.7%)となっています。多様で身近な相談の場や情報提供のあり方が求められていることがうかがえます。(資料 2-2 P20)

【体罰】

「体罰の禁止」を認識しているかに関わらず、「子どもを叩いたことがある」は、就学前が42.2%、小学生が48.2%となっています。就学前・小学生のいずれも、子育ての負担感が大きい人ほど、「体罰の禁止を知っているが、叩いたことがある」の割合が高い傾向にあります。叩いた理由は、就学前では「その場で問題行動をすぐにやめさせるため」が55.8%、小学生では「口で言うだけでは子どもが理解しないから」が51.8%で最も多く、体罰の禁止への理解促進が求められます。(資料 2-2 P21~22)

● 子育ての負担感×「体罰の禁止を知っているが、叩いたことがある」

就: 負担を感じること

小: 負担を感じること

・よくある ⇒49.7%

・よくある ⇒50.6%

・全くない ⇒13.5%

・全くない ⇒13.3%

【子ども・子育て支援事業に関するニーズ等】

就学前の73.7%が、定期的な教育・保育事業を利用しており(前回比+9.7%)、就学前の56.6%が小学校入学後に放課後児童クラブを利用したいと回答しています(前回比+7.7%)。(資料 2-2 P24、26)

産後の支援の利用希望日数は、いずれの事業も「0日」が3割で最も多く、次いで、産後ヘルパー(家事・育児支援)では「6~10日」「21~30日」が、産後ケア事業(宿泊型・日帰り型・訪問型)では「1~5日」「6~10日」が2割前後となっています。(資料 2-2 P30)

(2) 中高生・若者（共通の項目）

【安心できる居場所について】

安心できる居場所の数が多いほど、生活満足度が高くなる傾向があります。安心できる居場所や人と「つながる」ことの大切さがうかがえます。（資料 2-3 P4）

【意見表明等の意欲・市に思いを伝えやすい方法】

「市に意見を伝えたり、意見の実現に向けて一緒に取り組む機会に参画したいと思う（そう思う＋どちらかといえば、そう思う）」割合は、**中**51.7%、**高**35.6%、**若**46.4%であり、「どのような方法や手段であれば、自分の思いを伝えやすいか」については、いずれも「スマートフォン、タブレットやパソコンを使った方法」が最も多くなっています。意見を伝えやすい場づくりや、意見を伝える多様な方法が求められていることがうかがえます。（資料 2-3 P9）

●どんな方法や手段であれば、自分の思いを伝えやすいか

	第1位	第2位	第3位
中学生	スマートフォン、タブレットやパソコンを使った方法 75.9	学校に意見を入れる箱を置くなど、身近なところできる方法 47.8	手紙などで伝える方法 18.5
高校生	スマートフォン、タブレットやパソコンを使った方法 83.2	学校に意見を入れる箱を置くなど、身近なところできる方法 27.0	市長や市の職員に会って伝える方法 14.1
若者	スマートフォン、タブレットやパソコンを使った方法 85.4	市長や市の職員に会って伝える方法 25.5	子どもが集まり会議などで話しあって伝える方法 22.6

(3) 中高生だけの項目

【体験活動や地域活動】

体験活動（自然体験、社会体験、文化体験、地域活動、海外旅行・海外滞在経験）について、体験活動の頻度が高いほど、自己肯定感等も概ね高くなる傾向があります。子どもの成長過程において、体験活動の大切さがうかがえます。（資料 2-3 P2～3）

●社会体験の頻度×「今の自分が好きだ（あてはまる＋どちらかといえばあてはまる）」

・何度もした ⇒75.0%

・しなかった ⇒54.6%

●社会体験の頻度×「社会のために役立つことをしたい」

・何度もした ⇒94.2%

・しなかった ⇒76.3%

【結婚・子育て観】

将来、結婚したいかどうかについて、「結婚したい」は、中学生が 43.7%、高校生が 56.6%となっています。中高生とも前回調査の結果から「結婚したい」の割合に大きな変化はみられません。(資料 2-3 P15)

子育て観について、就学前・小学生と比較すると、**就学前・小学生は、6割が負担を感じつつも、9割以上が子育てを楽しめているのに対し、中高生は、9割以上が子育てに対して「大変そう」というイメージを抱いていることがうかがえます。**(資料 2-3 P18、19)

- 「子どもを育てることは楽しい(そう思う+どちらかといえば、そう思う)」
中：84.5% 高：80.9%
- 「子育てを楽しめている(よくある+たまにある)」
就：94.7% 小：92.1%
- 「子どもを育てるのは大変そうだ(そう思う+どちらかといえば、そう思う)」
中：94.8% 高：96.4%
- 「子育ては大変で、負担を感じる(よくある+たまにある)」
就：69.1% 小：63.0%

理想とする子どもの数については、中学生で「2人」が 60.3%、「3人」が 27.1%、高校生で「2人」が 59.3%、「3人」が 27.8%となっています。(資料 2-3 P16)

- 理想とする子どもの数
中 2人：60.3% 3人：27.1% 高 2人：59.3% 3人：27.8%

(4) 若者のみの項目

【結婚・子育て観】

「結婚したい(予定あり、すぐにでも、2・3年以内、いずれは)」は 65.6%、「結婚するつもりはない」は 11.5%、「わからない」は 18.0%となっています。(資料 2-3 P21)

子どもの数について、理想では「2人」が 47.8%、「3人」が 23.4%に対し、実際に持つつमりの数としては「2人」が 40.7%、「3人」が 9.2%となっており、理想より、実際に持つつमりの子どもの数が少なくなっています。(資料 2-3 P24)

- 理想とする子どもの数
2人：47.8% 3人：23.4%
- 実際に持つつमりの子どもの数
2人：40.7% 3人：9.2%

実際に持つつमりの子どもの数が、理想より少ない理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も多くなっています。(資料 2-3 P25)